

皮膚 CD4,56陽性 lymphoma の 1 例

竹田 知広, 藤原 美子, 福田 実恵子 (榛原町立 榛原総合病院), 竹岡 加陽
林田 雅彦 (天理よろづ相談所医学研究所)

皮膚 CD4,56陽性 lymphoma は, WHO 分類において Blastic NK-cell lymphoma として分類され, NK由来のリンパ腫と考えられているが, 近年 Chaperot 氏らによってその起源を plasmacytoid dendritic cells (pDCs) とする報告がある.

今回, 体幹部出血様紅斑を示す皮膚症状を主訴とした CD4,56陽性 lymphoma を経験したので, 樹状細胞への分化誘導実験を含め報告する.

【症例】73歳女性. 平成 16年 3月体幹皮膚の出血様紅斑にて近医受診. 著しい貧血のため同日当院紹介受診. 体幹の皮疹, 表在リンパ節腫大, CTにて腹部リンパ節腫大および脾腫を認め, 血液検査では WBC 5,100 (単球様の芽球 38%), Hb 3.7, Plt 2.0, LDH 261, CRP 1.4, sIL2-R 1,420 U/ml. 細胞形質は, CD4, 7, 11a, 38, 45RA, CD56, 123, HLA-DR 陽性, CD2, 9, 36, 40, 116, 11 弱陽性, CD3, 5, 10, 13, 14, 16, 19, 33 陰性. 抗原受容体遺伝子再構成は, TCR 1, JH (サザン法), TCR 2, CDR2, CDR3 (PCR法) いずれも陰性. EBウイルス遺伝子 (PCR法) 陰性. 経過は積極的な治療は望まず, 輸血等の対象療法のみで経過観察. 3週間後には WBC 170,000 と著

増. 約 6週間後, 多臓器不全で永眠された.

【分化誘導実験】樹状細胞への分化誘導は, 末梢血から比重遠心法にて分離した単核球 (芽球 98%) を, IL-2, IL-3, GM-CSF にてそれぞれ 4日間刺激し, 細胞表面抗原を調べた. さらに 2日間 CD40抗体を加えて培養した細胞のサイトスピン標本を作製し, 形態的变化を調べた.

【結果】サイトカインの添加では, IL-3 と GM-CSF により大型化し, IL-3 では CD11c, 40, HLA-DR の発現が増強した.

その後の CD40抗体による刺激では, さらに大型化と樹状細胞様の形態变化を認めた.

【まとめ】本症例は, Blastic NK-cell lymphoma に一致するが, CD40, 123 の発現や IL-3 添加培養により CD40, HLA-DR の発現の増強と CD40抗体の刺激による樹状細胞様变化から, pDCs を起源とする腫瘍であることが示唆された. 本邦においても Blastic NK-cell lymphoma の起源が, NK由来ではなく pDCs由来とする説を, 支持する症例であった.

連絡先 0745-82-0381